長洲町立長洲小学校　校長便り　№１９

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和４年６月２４日(金)

話題提供　～「うちには関係ない」ではない現実～

数年前気になる記事がありましたので紹介します。中味は、インターネットやゲームにのめり込み、あるべき姿を見失った少年たちの信じられない姿が書かれています。

寝食も忘れてネットのゲームにのめりこみ、学校や職場に行けなくなる人たちが現れ始めた。現実で生きることを放棄した彼らは、「ネトゲ廃人」と呼ばれる。その少年の手記だ。

「１カ月、風呂に入らなくても平気だった。大学には通わず、電話にも出ない。ガスも止められたが、不自由とは思わなかった。狭いアパートで、ベッドとパソコンの前を移動するだけ。血行が悪くなり、冬は足や手の指にしもやけができて痛かった。地方の大学に入学した１８歳の夏休みから、ネットゲームに夢中になった。１人暮らしとなり、親の監視がなくなったのがきっかけだった。１日４時間が１０時間、２０時間と伸び、外の世界には関心がなくなった。食パンをかじり牛乳を飲む日々で、体重は６キロ落ちた。このゲームは、自ら主人公となって敵と戦うゲーム。ネット上で見知らぬ人とチームを組んで挑む。勝てば攻撃力や防御力が増してレベルが上がり、さらに強い相手と対戦できる。敵はいつ現れるのかわからない。仲間どうしで交代で眠って、戦った。勝てば達成感があった。何度打ち負かしても、また魔物が現れる。ネットゲームの世界に終わりはない。こんな生活を送るようになって３年たったある日、疲れ果て、突然と戦闘に明け暮れる日常が楽しく思えなくなり、ログインをやめた。以来画面を開いたことはない。ゲームにはまった本当の原因は自己嫌悪。第１志望の大学に挑戦しなかった自分が嫌だった。ゲームで現実から逃げた。そして膨大な時間を損した。」

この若者にまともな勤めはできるだろうか。これは社会の損失だ。

さて、どのように思われますか。異常な状況ですね。この文章で特に気になるのは、「ゲームにはまった本当の原因は自己嫌悪。第１志望の大学に挑戦しなかった自分が嫌だった。ゲームをしてれば何もかも忘れられた。」という部分です。結局、嫌なこと、苦手なことを避けて楽な方に流されてしまったことが原因なのです。こうならないためには何が必要なのでしょう。先ずは勉強です。勉強しておけば自分の夢の幅を狭めずにすみます。次に、成功（達成）体験や挫折体験でしょう。挫折はしないに越したことはないのですが、私の場合は挫折とコンプレックスが次への活力になりました。最後に、親が子どもを突き放すということです。早い段階に「自分のことは自分で」という考え方を叩き込んでおいた方が、将来のためにもなります。いわゆる「親離れ子離れ」ということです。ある程度は甘えさせることも必要ですが、それが溺愛にならぬよう、また放任にならぬようバランスをとる必要があります。そこが子育ての難しいところです。子どもを育てるということは、私達の将来に直接関わる問題です。

偉そうにお話ししている私も、３人の子供の父親であり、下２人は大学生です。どのような場面においても、子育てには悩みます。

シリーズ「自分を語る」＃１９

中学校に入学してから暫くは生活リズムに馴染むことができず、少々面食らって生活していた私ですが、慣れてくると少年から青年への脱皮を目指し、少しばかり行動範囲、交友範囲を広げていきました。

小学校時代から興味のあった野球はともかくとして、中学校の冬休み頃から興味を持ち始めたのは音楽です。その頃は確か山口百恵さんが引退し、ピンクレディーが人気絶頂の頃でしょうか、更には私達が中学校時代に松田聖子さんや中森明菜さん、小泉今日子さんらが相次いでデビューしてくる頃です。しかしながら当時の私は、いわゆるアイドルといわれる方々には多少は興味があったものの、先ず興味が出てきたのは映画音楽でした。５年生か６年生だった頃、あの有名な「スター・ウォーズ」を観たんです。その物語に感動し、ついでに音楽にも興味が出たというところです。映画音楽については映画を観る暇もお金もないので、それだけで立ち消えするのですが、私の通った熊本市立楠中学校は下校時のＢＧＭがビートルズの「レット・イット・ビー」だったんですね。これがいつでも鼻歌として出てくるようになって、「誰の歌だろう?」とか考えているうちに、周りの仲間がいわゆるＬＰ（今の子ども達は知らないでしょうね）を貸し借りするようになり、「俺にも録音して!」なんて頼むようになりました。当時、コンポーネント・ステレオなどは一部の仲間の家にしかなく、その仲間の家に借りたＬＰを持ち込んで、カセットテープに録音してもらうのです。そしてそれを家にあった壊れる一歩手前くらいのラジカセで聞くわけです。テープを巻き込んだりしないように弛みを取り、慎重に再生ボタンを押していたのを覚えています。英語の歌詞を覚えるのも頑張りました。録音のレベルが低すぎたり高すぎたりすると聞きにくいので、また友達に頼んで録音しなおしたりして…。当時はエアチェックなんて言葉も流行りました。ビートルズは今でも聞いています。学年が進むにつれ、長渕剛、松山千春にも興味を持ち始め、中学２年生の頃は長渕剛ばかり聞いていたようです。

この頃から新たに興味を持ち始めたのがラジオの深夜放送でした。当時は空前の漫才ブームで、ビートたけし（北野武）の番組が一番面白かったような気がします。中島みゆきもやっていました。今もこの番組あるみたいですね。夜更かしして聞くものだから、次の日は辛かったですね。話題には事欠きませんでしたが…。

このように、中学時代というのは多くのものに興味を持ち、少し背伸びして大人に対抗していく、越えようとしていく時期ですね。今の小学生は少し情報が多すぎて、逆に、何に興味を持っていいのか分からない、興味を持っても長続きしないという状況が続いているようです。私達からすると、少し可愛そうな時代なのかもしれません。でも、後ろ向きの考え方では、子ども達を導くことはできません。私達大人は、子ども達に色々なことに興味を持たせることは、責任かもしれません。あれもダメこれもダメではなく、情報の取捨選択をさせながら、間違いには指導しながら、多くの経験をさせることが大切です。ということは我々も子ども達のトレンドは知っておく必要があるかもしれません。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）